

授業改善

【本校が3年間で目指した授業】

「単元マップ」を取り入れ、根拠を明確にして考えを表現させる授業

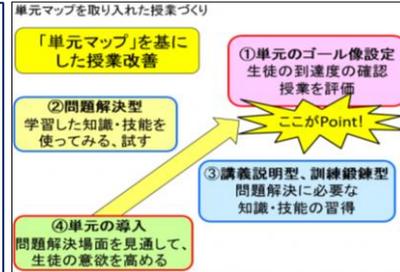
このような取組が効果的だった！

＜取組1＞「単元マップ」を取り入れた授業づくり

○ 単元を通して身に付けさせたい力(ゴール)を明確にし、「講義説明型」「訓練鍛錬型」「問題解決型」の授業スタイルを位置付けた。

(成果)

教科の特質を生かして3つの授業スタイルを組み合わせ、単元を指導していくことで、基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、既習の内容や経験をもとにじっくり考えさせる授業を実践することができた。



【単元マップ作成の手順】

＜取組2＞「行中スタンダード」を基にした授業実践

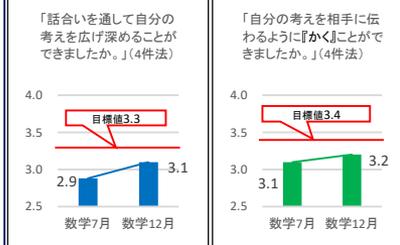
① 「行中スタンダード」の交流場面における目的やゴールを明確にするために、思考を広げ深める「比較」「選択」「関連」「分類」の視点と、練習問題等で共に学び合う「学び合い」の視点を設定した。

② まとめ・ふり返りでは、学習内容を再確認させるため、一時間の授業をふり返り、めあてに対する自分の考えを生徒の言葉で表現させた。

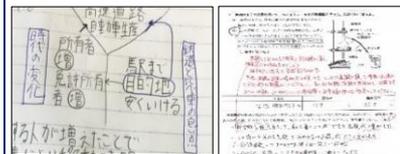
③ 定期考査結果を分析・考察し、生徒に身に付けさせたい力が習得できているか、授業者自身によるふり返りを実施した。

(成果)

「授業」アンケート結果や定期考査結果から取組を検証、改善することにより、「行中スタンダード」が浸透し、学力向上につながった。



【数学科「授業」アンケートの結果 (n=476)】



【「関連」の視点で交流して書かれた生徒の記述】

【定期考査ふり返り】

【考察】質的向上につながった本校の授業改善について

- 「単元マップ」を取り入れた授業づくりにより、知識・技能の理解・定着・活用を図る学習活動が効果的に行われ、生徒の思考力・判断力・表現力が確実に向上している。
- 「行中スタンダード」を基に授業実践を行うことにより、どの授業も見通しやポイントが明確になった。また、「行中ノート」(学習ノート)にもリンクさせたことで、生徒が1単位時間の学習内容をふり返り、ポイントを焦点化して自主学習に取り組むようになった。
- 「行中スタンダード」が浸透し、加えて交流場面の質が高まったことにより、「考えを広めたり深めたりすることができた」「自分の考えを相手に伝えるように『かく』ことができた」という生徒が増加した。

マネジメント

【本校が3年間で確立したマネジメント】

実効性を追求し、組織的に学力向上を目指すマネジメント

このような取組が効果的だった！

＜取組1＞目指す生徒像及び「授業」アンケート

① 学力向上で目指す生徒像をより具体化した。
② 目指す生徒像に照らした「授業」アンケートを作成し、目標値を設定してPDCAサイクルのC段階として活用した。

(成果)

「授業」アンケート結果から、課題を明確にして授業改善に取り組むことができた。

- 基礎的・基本的な知識や技能を身に付けることができた生徒 (生徒による授業アンケート3.4以上 昨年度比 +0.2)
- 友だちと話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる生徒 (生徒による授業アンケート3.3以上 昨年度比 +0.3)
- 理由や根拠とともに、自分の考えを相手に伝えるように「かく」ことができる生徒 (生徒による授業アンケート3.4以上 昨年度比 +0.35)
- 日々の授業をふり返る「行中ノート」を毎日提出することができる生徒 (行中ノート提出率 90%以上)

【学力向上で目指す生徒像】

【検証改善ロードマップ】

＜取組2＞検証改善ロードマップの作成

① 検証改善サイクルを効率的に実践するために、3部会(授業改善部、学力基盤部、単元マップ部)を立ち上げ、さらに学年毎に細分化した。

② 「いつ」「だれが」「何をするか」を学年毎、月別に明記し、学力向上に向けた取組の計画、実施、ふり返りを行うことができた。

(成果)

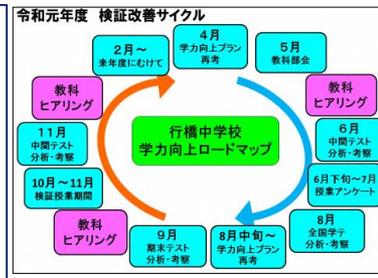
取組を明確に分担することで、仕事の集中をさせ、全教職員で取り組むことができるようになった。

＜取組3＞教科ヒアリングの実施

○ 教務担当主幹教諭と各教科部会での教科ヒアリングを年に3回実施し、定期考査結果の分析・考察や「授業」アンケートを基にした授業のふり返り、今後の具体的方策について協議した。

(成果)

同教科で互いの取組を共有したり、悩みについて協議したりする場を確保することで、授業改善の質が向上するとともに、教職員のモチベーションも向上した。



【教科ヒアリングを核にした検証改善サイクル】

【考察】効果につながった本校のマネジメントについて

- 目指す生徒像を具体化し、「授業」アンケートを実施することで、授業改善の方向が明確になった。
- P:教科ヒアリングで取組をふり返り今後の授業改善について具体化、D:日々の授業実践、C:定期考査結果のふり返り及び「授業」アンケートの実施、A:生徒の誤答、無解答率及び「授業」アンケートの分析・考察。このように本校の実態に即したPDCAサイクルを確立することができた。
- 教科ヒアリングを実施することで、学力課題を共通理解した上で、教科間の連携を深めたり、他教科と横断的な連携について考えたりすることができた。